



平成30年8月7日

各位

会社名 藤田観光株式会社
 代表者名 代表取締役社長 瀬川 章
 (コード番号：9722、東証第一部)
 問合せ先 代表取締役 企画グループ長 伊勢宜弘
 (TEL. 03-5981-7723)

第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

平成30年2月13日に発表しました平成30年12月期第2四半期連結累計期間(平成30年1月1日～平成30年6月30日)の業績予想と、本日発表の第2四半期決算実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成30年12月期第2四半期 連結累計期間業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 34,100	百万円 △200	百万円 △200	百万円 △200	円 銭 △16.69
実績値(B)	33,591	△64	△29	△32	△2.68
増減額(B-A)	△508	135	170	167	
増減率(%)	△1.5%	—	—	—	
(参考) 前期第2四半期実績 (平成29年12月期第2四半期)	33,818	158	255	△598	△49.94

2. 第2四半期連結累計期間業績予想の修正理由

売上高は、宿泊部門がインバウンドの集客が堅調に推移いたしました。が、婚礼部門におきましては、件数および人員の減少トレンドを抑制するには至らず、連結全体で前回発表予想を下回りました。

一方で、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、利益率の高い宿泊部門の増収を主因として、連結全体で前回発表予想を上回る結果となりました。

3. 通期連結業績予想について

通期連結業績は、WHG事業におきましては、8月31日に「ホテルグレイスリーソウル(335室)」、10月4日に「ホテルグレイスリー浅草(125室)」の開業を予定しているほか、既存施設も引き続き堅調に推移、リゾート事業におきましては、繁忙期である夏期に向けイベントの告知を強化するなど集客を図っており、概ね当初予想どおりを見込んでおります。

一方で、ラグジュアリー&バンケット事業におきましては、上期の婚礼部門の不調や下期の予約状況を踏まえ、当初予想から下方修正いたしました。が、「ホテル椿山荘東京」におきましては、下期の婚礼件数が前年並みに推移しており、2017年11月に新設いたしました庭園内神殿による和式婚礼の需要取り込みもあり、足下では婚礼件数の減少トレンドにも抑制効果が見られ、来期以降も含め件数獲得を図ってまいります。

したがって、現時点では、セグメント別で増減はありますが、連結全体では、平成30年2月13日に公表いたしました予想数値に変更はありません。なお、今後の状況の変化や、業績に応じて修正の必要性が生じた場合は、速やかに公表いたします。

(参考) 平成30年12月期 通期連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通 期	百万円 72,000	百万円 2,300	百万円 2,300	百万円 1,300	円 銭 108.50

(参考) 平成30年12月期 通期セグメント別業績予想 (平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(単位:百万円)

	上期 第2四半期累計期間 (1月～6月)		下期 (7月～12月)		通期 (1月～12月)	
	実績 (8/7発表)	当初予想比 (2/13発表)	今回予想 (8/7発表)	当初予想比 (2/13発表)	今回予想 (8/7発表)	当初予想比 (2/13発表)
売上高	33,591	△508	38,409	508	72,000	—
WHG事業	17,743	293	20,077	587	37,820	880
リゾート事業	2,637	△172	3,613	63	6,250	△110
L&B事業 ※1	11,909	△620	13,171	△129	25,080	△750
その他	2,681	△48	3,019	28	5,700	△20
調整額 ※2	△1,380	39	△1,470	△39	△2,850	—
営業利益	△64	135	2,364	△135	2,300	—
WHG事業	1,116	446	1,984	124	3,100	570
リゾート事業	△706	△76	256	△4	△450	△80
L&B事業 ※1	△39	△259	489	△211	450	△470
その他	△381	28	△319	△49	△700	△20
調整額 ※2	△54	△4	△46	4	△100	—
経常利益	△29	170	2,330	△170	2,300	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△32	167	1,332	△167	1,300	—

※1 L&B事業…ラグジュアリー&バンケット事業

※2 調整額…セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります

以 上